



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第一四六号〜

小寒 しょうかん

一月五日



干支みくじ

お正月、おかげ横丁で一番人気なのは、おそらく神路屋の干支みくじではないでしょうか。

伊勢神宮に初詣に来られた方が、伊勢神宮にないおみくじをおかげ横丁に立ち寄った際に引いていくのです。なるほど、おみくじ特設会場は行列ができる人気ぶりです。

干支みくじ三〇〇円の買い方は、三通りあると聞きました。一つはその年の干支を買い求める方、二つ目は自分の干支を毎年買う方、そして今回初めて知った三つ目が、守り干支です。

守り干支とは、自分の干支の六つ先、向かい側の干支のことをいいます。例えば、今年の干支の巳の守り干支は、亥にあたります。自分の干支とは正反対の性質をもっている守り干支を大切にし、その置物を身辺に置くことで、幸福が訪れると江戸時代からいわれているそうです。また、自分にはない性質のせいか、人間同士の相性も良く、惹かれ合うといえます。

明治時代の文豪、泉鏡花はウサギの置物の収集家として知られていますが、これは本人が酉歳であるため、ゲン担ぎで守り干支である卯の置物を集めたからといわれています。にわかには、守り干支が気になってきました。ちなみに、子と午、丑と未、寅と申、卯と酉、辰と戌、巳と亥です。

もうひとつ、干支みくじの買い方がありました。十二の干支すべてを買い揃え、置物として並べ置くのだそうです。小さくて丸くて、思わず手に取りたくなるかわいらしい十二の干支みくじ。すべてを揃えたいくなる気持ちもわかりますね。

文 千種清美

